



関西大学

大阪都市遺産研究センター

Newsletter

No. 2 2011 年 1 月 31 日

目次

大阪都市遺産研究センター 第 1 回研究例会	1
都市遺産視察（広島）	2
大阪都市遺産研究センター 第 2 回研究例会	2
第 1 回大阪都市遺産研究会	3
大阪市都市工学情報センター所蔵古写真の調査	4
大阪都市遺産研究センター、ウェブサイトの開設	4

大阪都市遺産研究センター 第 1 回研究例会

平成 22 年 10 月 28 日、大阪都市遺産研究センターの第 1 回研究例会が行われた。第 1 回研究例会では、ピースおおさか（大阪国際平和センター）が所蔵する「戦略爆撃調査団撮影フィルム」の上映と史料検討を行った。

大阪都市遺産研究センターでは、大阪の都市景観に関するさまざまな史料を調査している。その一つとして、この「戦略爆撃調査団撮影フィルム」がある。これは戦後まもない昭和 21 年（1946）にアメリカ軍の戦略爆撃調査団によって撮影された 16mm カラー映像である。昭和 10 年代の大阪の地図が刊行されていないため、この時期の大阪の都市景観を知ることができる数少ない史料の一つとなっている。

今回はこのフィルムを上映するために、16mm 映写機が必要となり、また映写機を操作するための技師も必要となるため、機器と技師を手配して、研究例会の形をとりつつ史料調査を行うこととなった。

フィルムの内容は、航空機から俯瞰する構図で大阪の市街を撮影したものが 3 本と、地上から撮影したものが 2 本ある。音声はなく、空襲で焼け野原になった大阪の街の様子が記録されているが、ところどころ焼け残った建物や、特徴的な道路・橋・堀川などから、おおよその地理情報を読み取ることができる。また 1 本はこ

れらのフィルムを編集して解説を加えた音声入りのものであった。

計 6 本の 16mm フィルムを約 3 時間かけて上映しながら、大谷渡氏（関西大学文学部教授 / センターサブリーダー）と橋寺知子氏（関西大学環境都市工学部准教授 / センター研究員）による解説が行われた。

大阪都市遺産研究センターでは、このフィルムを都市遺産研究の史料として活用するために、デジタルコピーを作成し、近代の大阪都市遺産についての研究を進める予定である。



都市遺産視察（広島）

平成22年11月5日から6日にかけて、広島にて文化遺産視察を行った。主な視察地は、鞆の浦（広島県福山市）、広島平和記念公園（広島県広島市）、厳島神社（広島県廿日市市）であった。

鞆の浦は、近世以来の港町の景観をよく保存する名勝である。1992年には国土交通省によって「都市景観100選」として選定され、また2007年には「美しい日本の歴史的風土100選」にも選ばれている。鞆の浦では、町並み保存の実態の視察を行った。また鞆の浦では町並みの中に古い町家が現存し、本センターの可視化チームが取り組んでいる「大正期・道頓堀の復原CG」の制作に関する資料写真も撮影することができた。

広島平和記念資料館では、田邊雅章氏（株式会社ナック映像センター）から、戦前の広島市の復原CG制作についてのレクチャーを拝聴した。田邊氏は、原爆投下の爆心地に近い広島市猿楽町のCGを制作しており、その制作過程に関する話を聞くことができた。田邊氏のレクチャーによると、こうした復原CGの制作では、当初から完璧なものを作り上げることは難しく、制作して公開しては経験者や識者の意見を集め、再度版を重ねて制作

するという行程の積み重ねによって完成度を高めていくことになるとのことであった。

厳島神社では、世界遺産に指定された社殿と、観光資源としての利用の現状を視察した。ただし現状では厳島神社の視察は連絡船の運航ダイヤの限界もあり、視察全体の行程の中では時間的な制約の厳しい状態であったといえよう。



大阪都市遺産研究センター 第2回研究例会

平成22年12月16日（木）、大阪都市遺産研究センター第2回研究例会が開催された。この度の研究例会は、本研究センターにおけるサブテーマB「商都大阪」を主とするものであった。サブテーマBでは、「大阪の学芸」を研究キーワードの一つとしている。今回の研究会の3名の報告も、そうした視点から大阪の都市遺産を研究するものであった。

まず浜野潔氏（関西大学経済学部教授 / センター研究員）が「明治・大正期大阪の人口変動と都市化—推計方



法をめぐって」というタイトルで報告を行った。大阪の近代都市としての発展を追う上で、人口の変化は実に様々な情報を与えてくれるデータであるが、公的資料を基にした統計では誤差が生じるケースがある。浜野氏の報告は、この誤差が生じる原因とその修正方法をめぐるものであった。

次に、藪田貫氏（関西大学文学部教授 / センター長）が「近世・近代の泊園書院と大阪商人」というタイトルで報告を行った。藪田氏は、かつて大阪にあった私塾「泊園書院」を関西大学の源流の一つであると位置づけてい



る。今回の報告は、泊園書院で学んだ人びとに焦点を当てたものであった。

最後に、朝治啓三氏（関西大学文学部教授 / センター研究員）が『住友文庫』資料調査の目的と方法」というタイトルで報告を行った。大阪府立中央図書館には、明治期に輸入されたドイツの医学系の博士論文が多数所蔵されている。朝治氏の報告は、これらの史料に関する調査と今後の研究方針についてのものであった。



第1回大阪都市遺産研究会

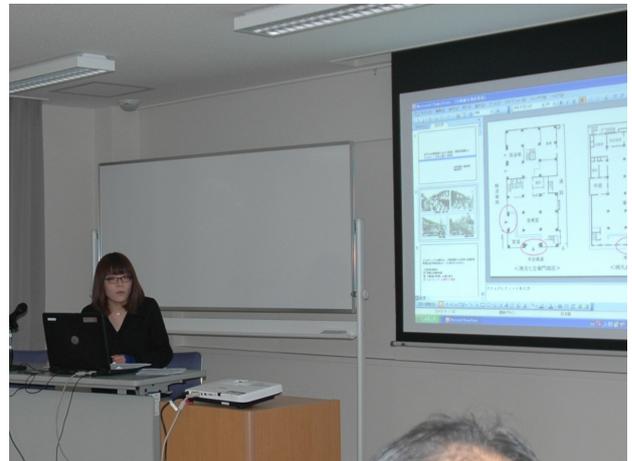
大阪都市遺産研究センターの構想の一つに、若手研究者の育成がある。こうした若手研究者のための研究成果発表の場として、平成22年12月16日（木）に、第1回大阪都市遺産研究会が開かれた。

報告者は松平留奈氏（関西大学大学院理工学研究科ソーシャルデザイン専攻建築学分野員外研究員）と岡野佑也氏（関西大学大学院文学研究科日本史学専修博士課程前期課程）の2名であった。また、各報告者に対して1名のコメントーターがついた。

松平氏の報告のタイトルは「近代の大阪船場における

商店・事務所建築のビルディング化に関する研究」である。大阪船場に建てられたビルが、近代建築でありながらも近世以来の消化の伝統を受け継いだ要素を持つことを述べた。コメントーターは橋寺知子氏（環境都市工学部准教授 / センター研究員）であった。

岡野氏の報告のタイトルは「明治後期の大阪五花街と都市景観」である。かつて大阪に存在した5つの花街、すなわち新町・堀江・南地・北新地・松島の景観の変化について述べた。コメントーターは大谷渡氏（文学部教授 / センターサブリーダー）であった。



大阪市都市工学情報センター所蔵古写真の調査

本研究センターでは、3DCGを用いた大阪の都市景観の復原に取り組んでいる。CGによる復元のためには、都市景観の研究が必要となるが、中でも古写真は特に重要な史料の一つである。

この度、大阪市都市工学情報センター（大阪市中央区大手町）が所蔵する古写真の調査を行った。大阪市都市工学情報センターでは、大阪の都市景観に関する写真を約8600枚所蔵しており、その中には明治期から昭和初期にかけての景観を撮影したものもある。これらの所蔵写真のうち、道頓堀の景観を写したものと、大阪の街の賑わいの雰囲気を知ることができるものを中心に、いわ

ゆる「大大阪」と呼ばれた大正後期～昭和初期までの写真を調査した。

調査写真のうち、3DCG制作の史料となるものについては、大阪市都市工学情報センターに申請して借用の手続きを取った。

これらの調査によって得られた知見を、現在、本センターの可視化チームが取り組んでいる「大正期の道頓堀の景観復原CG」に反映させていく予定となっている。また、大阪市都市工学情報センター所蔵写真以外の写真史料も調査をおこなっている。

大阪都市遺産研究センター、ウェブサイトの開設

この度、関西大学大阪都市遺産研究センターのウェブサイトが開設された。ウェブサイトの構成は、「ごあいさつ」「センターについて」「研究行事」「成果物・出版物」「スタッフ紹介」「所蔵資料」「コラム」からなっている。

このうち「コラム」は、研究員による連載コラムと、研究センターの動向を伝える「センターNOW！」があり、随次更新される予定である。

「研究行事」では、本センターが開催する大阪都市遺産フォーラムや国際シンポジウム、研究会などの情報が掲示される。なお、市民向けの行事については、本ウェブサイトのトップページにも、随時情報が掲示されることになっている。

「成果物・出版物」では、本センターから刊行される研究誌やNewsLetter、大阪都市景観変遷史叢書などの情報を掲載する。これらの成果物・出版物のうち、いくつかはPDF化され、本ウェブサイトで閲覧できるようにすることも予定されている。また本センターの可視化チームが制作したCGコンテンツなどをウェブ上で公開する構想もある。

「所蔵資料」では、本センターが所蔵する資料を公開する予定である。本センターでは、大阪の都市遺産に関

連する史料を収集している。これらをデジタル化し、アーカイブを制作して公開する準備を進めている。

本ウェブサイトのデザインに使用した画像は、大阪都市遺産研究センターが所蔵する「京阪土産名所図画」および「赤松麟作版画集 大阪三十六景」である。ともに本ウェブサイトにて閲覧することができる。

関西大学大阪都市遺産研究センターのウェブサイトのURLは、<http://www.kansai-u.ac.jp/Museum/osaka-toshi/index.html>。



関西大学大阪都市遺産研究センター NewsLetter No. 2 2011年1月31日発行

発行・編集 関西大学大阪都市遺産研究センター

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 関西大学博物館内

TEL 06-6368-0095 FAX 06-6368-0092

<http://www.kansai-u.ac.jp/Museum/osaka-toshi/>

mail osaka-toshi@ml.kandai.jp

